

平成 29 年度 第 1 回 高精度測位社会プロジェクト検討会
議事要旨

1. 日時：平成 29 年 10 月 16 日（月）14：30～16：00
2. 場所：国土交通省 3 号館庁舎 11F 特別会議室
3. 議事
 - (1) 高精度測位社会プロジェクトのこれまでの取組と今後の展開について
 - (2) 屋内外シームレス測位サービス実証実験について
 - (3) 屋内地図の整備・流通に関する推進体制の構築について
 - (4) 関連プロジェクトにおける取組について
4. 議事要旨

議事（1）（2）について

事務局より資料 2、3、4 の説明後、出席者より以下の発言がなされた。

<これまでの実証実験成果について>

- ・今後同じような高精度測位を推進する皆様が、同じ検討を繰り返さないでいように、ノウハウやガイドラインなどに残しておいていただきたい。
- ・1 箇所のエリアでも構わないので、来年度以降も自由に実験できるようなオープンな環境を残しておいてほしい。

<今後の展開について>

- ・本日まで参加されている構成員や傍聴者の方々に向けてのお願いとなると思うが、今年度実験する主体の方々が必要であると思っており、それぞれの組織にお戻りになられたときに、2020 年に向けて高精度測位の成果をどう活用していくか、検討会やサービス事業者実証なども活用しながら考えていただきたい。

議事（3）について

事務局より資料 5 の説明後、出席者より以下の発言がなされた。

<推進体制について>

- ・これまでは高精度測位社会の屋内の地図は、実証実験として国が整備して、国が皆様に提供する形としてきたが、今後の展開を考えるとずっとこの形で国が提供していく訳にも行かず、民間側で回していく形となるために必要な体制案であると理解した。

<G 空間情報センターについて>

- ・最近、データ流通を事業として行いたいといった事業者が増えている。事業者がデータ流通を行うにあたり、様々な取組みが政府の中でも行われているため、検討の中で連携の上、最適化して進めていただきたい。例えば、産業データを持っているデータ流通主体を認定する仕組みを検討している団体や、データの品質の基準を作ろうとしている団体など様々ある。G 空間情報、様々なデータを取り扱う基礎データとなると想定しているため、事前にそういった団体と連携しておいた方がよいと考えている。

<地図データのライセンスについて>

- ・民間側に移した際に、データのライセンスに関する民間の論理やお金の論理が入ってくると複雑になると認識している。民間側でやるにしてもなるべく利便性の高い形、オープンデータのような形で実現していただきたいと考えている。

<測位環境について>

- ・実証実験の資料の説明では、測位環境の整備と地図の整備が書かれており、測位環境の整備についてはビーコンのみの記述がかかっているが、ビーコンをつけないとこの環境が使えないような誤解を与えかねないと思う。基本的に推進体制の方でも地図の作成と位置情報・パブリックタグの情報共有の2本柱が存在すると思うため、もっとそちらを明確にした方がよいと思う。

<更新情報の提供について>

- ・協力体制について、例えば地図情報の更新データを民間の施設管理者が提供していくにあたり、足並みを揃えてどういった情報提供が求められるのかなど、施設管理者の個別の事情もあると思うため、引続きうまく調整を図っていただきたい。
- ・施設管理者の情報提供に関しては、それぞれの事情があると思うので、出せる部分、出せない部分存在すると思うが、例えば地図で考えると、歩いていると急に地図が消えるというのはありえないので、オリパラに向けての重要性を訴えながら、多少事情があり足並みが揃わなくても、最終的には全ての地図が揃うようにぜひ協力いただければと考えている。そのためには、国土交通省からのプッシュもあるが東京都や、他の委員会などでもぜひ支援いただければと思う。

議事（4）について

国土地理院、国土交通省総合政策局より資料6、7について説明後、出席者より以下の発言がなされた。

<バリアフリー・ナビプロジェクトの啓発について>

- ・バリアフリー・ナビプロジェクトについて、ガイドラインの改定とあるが自治体に対する啓発はどのような手法で行っているか。先日、自治体の方でバリアフリーマップをつくりたいという話を聞いたが、このガイドラインについては、知らないようだった。

(回答)

- ・改定されたことに関するプレスリリースや、自治体への研修の場などでの説明を行い、PRを行っている。

<パブリックタグのベース地図について>

- パブリックタグの座標については、どの地図をベースに作った座標なのか、基準や運用に関する考えはあるか教えてほしい。利用者側からすると、実際の運用として、基準となるものが明確になっていないと使い勝手が悪いと思っている。今の段階では、それぞれのルールが決めて進めることでよいと思うが、パブリックタグを登録する仕組みと、白地図の作成の仕組みがうまく連携していることについても今後検討を進めて欲しい。

(回答)

- パブリックタグには、たくさんの情報を登録できる。その中に、例えばその位置情報をどのように取得したかという項目があり、それを参照して正確に記述していただければ、正確な座標が分かる想定される。ご示唆いただいた内容は検討していきたい。

以上